

建築大工Q&A

Q1 右側面図における①、②桁の相欠き部分の表現から、⑦、⑧隅木と①、②、③桁の取り合い部分において隅木底面には「くいつき(あご)」を施すとの判断で良いでしょうか？

A1 ⑦⑧隅木底面と①②③桁の取り合いについては、隅木底面は桁上ばで水平に切断して結構です。特に「くいつき(あご)」の加工は必要ありません。

Q2 仕上がり断面寸法表の⑪の備考欄に「上ばくせ削り」とありますが、下ばも削らないといけないのではないのでしょうか。

A2 下ばについては、くせ削りする必要はありません。⑪材の外側面下ばは⑫材の下ばと合致させますが、内側面は、⑪材を棟木下ばまで延ばし、⑫材を⑪材の下ば面に突付けて納めます。

Q3 振れたる木⑪、⑫及び破風板 16、17 の原寸図の展開方法について質問します。参考図を見ると外面が内側になるように描かれていると思われませんが、一般的には見える側が内側になるように展開することが普通だと思いますが、自由に展開して良いのでしょうか？

A3 参考図では、振れたる木⑪⑫、破風板⑬の展開図について、向こう側面(外面)を最初(内側)に描くように見えますが、隅木⑦と同様に、手前側面を最初に描いても差し支えありません。

Q4 ⑭棟木受けと隅木の取り合いで、5mm の大入れと記載されていますが、詳細図や平面図に数字が入っていないため、解釈がいろいろ出来るかと思います。例えば、「材の長さ方向で」、「平面図上で隅木面から」、「山なりに」。どこからどこまでを指しているのか分からないので、ハッキリと指定して下さい。

A4 ⑭棟木受けと隅木の取り合いについては、平面図上で、隅木面から直角に 5mm の大入れとします。課題図に追記しました。

Q5 競技課題3. 仕様(6) 10)「⑭棟木受けと⑦⑧隅木・・・」の説明に於いて、「各隅木に5mmの大入れとし、」とあるが、これは「⑭材料なりに5mmの大入れ」か、「隅木に直角に5mmの大入れ」のどちらと理解すればよいのでしょうか？

A5 質問 04 への回答と同じく、⑭棟木受けと隅木の取り合いについては、平面図上で、隅木面から直角に 5mm の大入れとします。課題図に追記しました。

Q 6 原寸図の作成にあたって、配布される片面シナ合板が反っていることがあり、苦労したことから、両端を押しピン等で固定することは可能か、また、直定規の位置止めとして押しピン等を使用することは可能か。さらに、今回の会場は体育館ということで、削り台もしくは加工台を養生用のコンパネにビス等で固定してよいか、また、削る際にハネムシを使用してよいか、併せて伺いたい。

A 6 シナ合板の両端を押しピン等で固定すること、直定規の位置止めとして押しピンを使用することは差支えありませんが、ピンの長さは10mm以内のものを使用してください。削り台もしくは加工台を養生用のコンパネにビスで固定することは、養生用コンパネをビスが突き通って会場の床を傷つける恐れがあるため、禁止しています。材料を削る際にハネムシを使用することは差支えありません。

Q 7 原寸図の作成にあたって、全ての展開図にはマーカー又は色鉛筆で部材両端の切墨の本体側に色付けすることとあるが、切墨とは「ホゾ」を除く「くいつき（あご）」や胴付き部分という解釈で良いか。また、色付け忘れは、どの程度採点に影響するか伺いたい。

A 7 展開図でマーカーまたは色鉛筆で色付けするのは、切墨（胴付き部分）の本体側です。色付け忘れについての具体的な減点の点数については、明らかにできません。

Q 8 ⑧隅木と⑨たる木の取り合いについては、隅木当たりだけ欠きとりとあるが、「くいつき（あご）」を施すのか伺いたい。

A 8 ⑧隅木と⑨たる木の取り合いについては、隅木当たりだけ欠きとるので、「くいつき（あご）」を施すことになります。

Q 9 幅芯墨の墨打ちの際、木口のマーキングに罫引きを使用するが、桁の三つ割りの通しほぞや、合い欠きの墨付けで、罫引きをマーキングとして使用してもよいか伺いたい。また、組立使用工具にスコヤを追加していただけないか。

A 9 桁の三つ割りの通しほぞや、合い欠きの墨付けで、罫引きをマーキングとして使用しても差支えありません。組立使用工具で直角を確認するのは、さしがねを使用してください。組立時にスコヤは使用できません。

Q10 棟木や隅木のビス止めは上ばより・・・と明記してあるが、任意の位置で良いのか。また、仮に峰に打つ場合、ビス頭隠しのため峰を欠き込んでもよいか伺いたい。

A10 ビスの種類及び止める面は課題文で指定していますが、詳細な位置については、選手の方で部材を止めるのに適切な位置を決めてください。ビス止めの際、峰を欠き込むかどうかは自由です。